

# 彩の歳時記

平成二十一年 十月

衣に落つる松の声、夜寒を風や知らすらん

能「砧」より

「いざいざ砧を打たんとて馴れし襖の床の上、涙かたしき狭筵に思いをのぶる便りぞと夕ぎり立寄り主従とともに打つとかや、衣に落つる松の声、夜寒を風やしらすらん」

砧(きぬた)は、世阿弥【1363c.~1443】作といわれる夢幻能。



夫の留守宅を守る妻が砧を打つことで悲しみを表現しており、詞、節ともに晩秋の物悲しい情趣が昔より好まれてきました。「砧」とは木槌で生地を打って柔らかくしたり、艶をだしたりする道具。

世田谷区の「砧」は平安時代以前、絹布の生産が盛んであったことから明治二十二年に誕生。

上村松園【1875~1949】の代表作「砧」は謡「砧」を材に、元禄・享保の装束で描かれています。

## 十月の異称

神無月 諸国の神が出雲の国に集まり、自国を留守にすることからこう言う。出雲(島根県)は神有月。時雨が多いことから「時雨月」。

## 十月の暦

一日 衣替え 四季のある日本に古くからある風習。現在、着物では、この日からが袷(あわせ)、六月

一日~三十日と九月一日~三十日までが単衣(ひとえ)と七月、八月が薄物(うすもの)。

都民の日

三日 中秋の名月 十五夜

里芋を供えることから「芋名月」とも。

名月や池をめぐりて夜もすがら 芭蕉

八日 寒露

草花に露が宿る頃。長雨が終わり秋も深まる。東では紅葉が始まる。

十二日 体育の日 本来は十日だが2000年より「ハッピーマンデー制度」により第二月曜日に。

## 芭蕉忌

「古池や蛙飛び込む水の音」の句で有名な俳聖、松尾芭蕉【1644~1694】の忌日。

新暦では十一月二十八日。丸の内「出光美術館」では

十八日まで、仮名書跡で書残された句の懐紙や短冊・書簡

など芭蕉の三大真跡コレクションの一つ、出光コレクションから「奥の細道」関連の品や山形の蔵先からの品が展示されている。 「野を横に馬引き向けよほととぎす」の発句短冊↓



二十三日 霜降

霜が降りる頃。深まる秋、北から紅葉前線が徐々に日本列島を染めてゆく。

二十七日 文字・活字文化の日

2005年七月に施行された「文字・活字文化振興法」により制定された。

読書週間(10/27から1週間)の初日。朗読の日として国立国会図書館で政治家、経済人、作家、スポーツ選手、俳優、アナウンサーなどが朗読に参加する。

## 松蔭忌

明治維新の精神的指導者、吉田松陰【1830~1869】の忌日。没後150年。



司馬遼太郎著『世に棲む日日』に描かれている。井伊直弼による安政の大獄により処刑された。松下村塾では、高杉晋作、伊藤博文、山県有朋ら約八十人の人材を育成。

三十日 十三夜

日本独特の風習。平安貴族が月を見て詩歌を詠んだのが始まり。

1895年に書かれた樋口一葉の小説に「十三夜」がある。

三十一日 ハロウィーン(万聖節)

二千年前のケルト人が秋の収穫を祝い亡き友や親戚を偲んだ宗教行事がキリスト教に取り入れられ、今では、

クリスマスに続くアメリカの祭事で日本でも近年盛んに。



## 十月の歌

まっかな秋 昭和三十八年(1963)NHKの『たのしいた』で放映。

照り輝く紅葉の中を歩いている子供たちを生き生きと描いている

詞の薩摩忠【1931~2000】は童謡や歌謡曲の他にシャンソンや

カンツォーネの訳詞も多いが、本来は叙情派の詩人で1964年

に『海の誘惑』で室生犀星賞を受賞。作曲の小林秀雄【1931~】

は独唱曲(「落葉松」詩は野上彰)などで知られている。



まっかだな まっかだな  
つたの葉っぱがまっかだな  
もみじの葉っぱもまっかだな  
沈む夕日に照らされて  
まっかなほつたの君と僕  
まっかな秋にかこまれている  
まっかだな まっかだな  
からすうりつてまっかだな  
どんぼの背中もまっかだな  
夕焼け雲を指さして  
まっかなほつたの君と僕  
まっかな秋に呼びかけている